

単元名 6 いにしえの心を受け継ぐ ―夏草 古典名句・名言集 配当時間 4時間

単元の目標 (1) 作者や作品について興味をもち、俳句と地の文との関係に注意しながら朗読することができる。古典の言葉を引用して鑑賞文やメッセージを書くことができる。
(2) 芭蕉の「旅」についての考えを読み取り、現代の「旅」がもつ意味と比較することができる。芭蕉が見たものや感じたことを想像することができる。自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書くことができる。
(3) 人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとする。

標準的な展開例

12210215_001

【準備等】国語指導CD, 再生機

| 学 習 活 動 | 留 意 事 項 など |
|---|--|
| <p>1 朗読を繰り返し、文体に慣れ親しむとともに、「1」の内容や表現の特色を捉え、俳句を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 出典、作者 (p. 160) を読み、作品と作者について基礎知識をもつ。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 作者についての基礎知識をもち、「1」の部分の情景や心情を理解しよう。 ○ 「1」の原文を繰り返し読む。 <p>○ 現代語、脚注を参考に、原文の内容をつかむ。</p> <p>○ 俳句を鑑賞する。</p> <p>○ 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取り、現代と比較する</p> <p>2 脚注を参考に「2」の内容を捉え、旅先での芭蕉の思いを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 旅先での芭蕉の思いを読み取ろう。 ○ 「2」の歴史的背景をおおまかにつかむ。 <p>○ 「2」を朗読し、脚注を参考に現代語訳する。</p> <p>○ 表現の特色をつかむ。</p> <p>○ 3句の俳句を鑑賞する。</p> <p>○ 旅先での芭蕉の思いを想像する。</p> <p>3 心に響く俳句を選び、短い鑑賞文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「1」「2」を通読する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 心に響く俳句を選び、鑑賞文を書こう。 ○ 「おくのほそ道」俳句地図 (p. 156～p. 157) の俳句について知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 行程などを概観としてつかませるために、教科書 (p. 156～p. 157) を手がかりとしたい。 ・ 教師が範読をする。または、国語指導CDを利用してもよい。 ・ 古文の仮名遣いや古語についても簡単に説明する。 ・ 俳句と地の文から成る構成の効果に気付かせる。 【評】俳句と地の文との関係に注意して朗読する活動を通して、「知識・技能」を評価する ・ 以下に注意して内容をつかませたい。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 古人 ○ 東北に旅したいという思い ○ 歌枕の地をめぐる ○ 具体的な旅の支度 ○ 芭蕉の住まいを表す言葉 ・ 現代語訳を参考に、季語、切れ字、込められた心情について理解させたい。 ・ 芭蕉の「旅」に対する思いが読み取れる部分を抜き出し、現代の「旅」がもつ意味と比較させる。 【評】「旅」についての考えを比較する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 藤原三代や義経について、簡単に説明を加える。 ・ 教科書 (p. 156) の地図を使い、背景となる場所について確認する。 ・ 繰り返し朗読させ、原文のリズムを味わわせる。 ・ プリントを用意したり、ノートに原文を視写させたりして、部分に対応する形で現代語訳をさせるなど工夫したい。 【評】現代語訳する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 対句的な表現や、数字の多用による効果に気づかせる。 ・ 現代語訳を参考に、情景、季語、切れ字、心情を理解させる。 ・ 芭蕉が高館や光堂で何を見て何を感じたのかをまとめさせる。 【評】芭蕉の思いを想像する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 群読、斉読、グループ読み、個人読みなど方法を工夫したい。 ・ 「おくのほそ道」の旅程をおおまかに確認する。 ・ 季語や切れ字を確認し、現代語訳を参考に芭 |

| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞文を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞文を交流し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「夏草」の、表現や文体の特徴を挙げる。 ・芭蕉のものの見方や感じ方について考えたことを発表する。 <p>4 古典の言葉を引用してメッセージを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★古典の言葉を引用して、メッセージを書こう。 ○学習のねらいと手順を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ○古典の言葉を選び、贈る相手と目的を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ○文章の形態を選んで書く。 <ul style="list-style-type: none"> ○メッセージを読み合い、感想を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ○学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手の状況や自分の思いにふさわしい言葉や文章の種類を選択したか。 ・論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫したか。 | <p>蕉の心情を想像させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した俳句の中から、自分の心に響いた俳句を選ばせる。 ・以下の点に注意させ、自分の思いや感想を交えて書けるように指導する。 <ol style="list-style-type: none"> ①なぜ心に響いたのか ②どのように心に響いたのか ③根拠となった表現は何か <p>【評】芭蕉のものの見方や思いを読み取り、鑑賞文を書かせる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、鑑賞文を読み合う。 ・気付いたことや感じたことを付箋に書き込むなど、交流の方法を工夫したい。 <p>【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書（p. 162）上段を読み、学習のねらいと手順を確認させる。 ・教科書（p. 163）下段の例文を読ませ、作品のイメージを明確にさせる。 ・既習の古典作品の中から、「誰かに贈ってみたい」という観点から、気に入った言葉や心に響いた言葉、印象に残った言葉などを選ばせる。 ・どのような状況の、誰に、どのような目的で贈るのかを考えさせる。 ・手紙、物語、随筆など、自分の思いを伝えるのにふさわしい形態を選んで、文章を書かせる。 <p>【評】古典を引用してメッセージを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来上がった文章を読み合い、感想を交流させる。 ・「メッセージ集」としてまとめて、回覧するなどの方法も考えられる。 <p>【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】
 古典を学習するということは、古典の文章や内容を読んだり知ったりするだけでなく、そこから今の生活を刺激し、豊かにすることである。心情や情景を想像して楽しむ活動を多く取り入れることで、より身近に古典を感じさせるとともに、その時代に生きた人々と心を通わす単位としたい。朗読や暗唱の機会を多く設けることで読み慣れるだけでなく、独特のリズム感もとらえさせたい。また、情景やその思いを捉えることで、古人のメッセージから自己を見つめ直すこともできる。